

有限会社ヤマイチ小椋口クロ工芸所

Pick Up!

平成27年度

事業計画名

真空吸着方式ロクロ導入による付加価値
南木曽ろくろ細工の開発と生産効率の向上

概 要

真空吸着方式ロクロを導入して、今まで技術的に加工が困難であった極薄や芯をズラした南木曽ろくろ細工の新商品を製作して付加価値を向上させ、また、作業時間短縮等による生産効率の向上を実現、高級志向の若い世代をターゲットとした事業展開を図る。

分 類

＜対象類型＞ 革新的サービス

○付加価値の向上

新規顧客層への展開

独自性・独創性の発揮

ブランド力の強化

＜事業類型＞ 小規模型

試作開発等

成 果

真空吸着方式ロクロを導入して、今まで技術的に加工が困難であった極薄や芯をズラした南木曽ろくろ細工の新商品を製作して付加価値を向上させると共に作業時間短縮等による生産効率の向上を実現。高級志向の若い世代をターゲットとした事業展開を図った。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

有限会社ヤマイチ小椋ロクロ工芸所(南木曾町)

「木地師」の伝統と技術を守りつつ、 新たな加工法導入と職人育成に活路を見出す。

南木曾ろくろ細工の伝統を守る

妻籠宿にほど近い南木曾町漆畑地区。明治以来「木地師の里」として知られ、南木曾ろくろ細工の工房が軒を連ねます。



「木地師」の歴史をさかのぼると、1100年以上も前、文徳天皇の第一子・^{これたか}椎嵩親王の家臣で、木地挽きの技術を習得した小椋実秀と大蔵惟仲の末裔とされています。良い木を求めて全国各地へ散らばった木地師たちの子孫は10万人とも。ヤマイチ小椋ロクロ工芸所の小椋一男社長もその系統を継ぐ一人です。

「この地に木地師が移り住んできたのは350年ほど前ともいわれますが、定住したのは明治になってから。ヤマイチとしては私で5代目です」

木曾に生育するトチ、ケヤキ、セン、ナラなどの落葉広葉樹を活かした南木曾ろくろ細工は、木目の美しさ、自然の風合いと手ざわりの良さで結婚式の引き出物や記念品として人気を集め、大量生産をしていた時期もありました。しかし安価なプラスチック製品等を押され、需要が減少。職人も減り、後継者不足に不安を抱える状況が続いています。

小椋社長は伝統工芸士として南木曾ろくろ細工の伝統を守る一方、企業経営者として経営のあり方を模索。同社製品が購入できるインターネットサイトを運営するほか、UFO型の花器、フタが立つ急須台（特許取得）など、新しい顧客の開拓を目指した商品開発も積極的に行っています。



UFO型花器

新たな取り組みに活路

「もっと変化に富んだものができないか。さらに、木をムダにしたくないという思いからこの機械を導入しました」

同社は平成28年度ものづくり補助金を活用し、

真空吸着式ろくろを導入。削る木を真空吸着するため機械に



真空吸着式ろくろを使った加工

固定するのに必要だった余分な木が不要になり、真円を容易にずらすことも可能になりました。今まで技術的に困難だった極薄や新しいデザインの商品開発により他社との差別化を図り、新たな顧客開拓にもつながると考えています。

「新しいことに取り組んで活路を見出したい」と力を込める小椋社長。「お客様に店に来ていただく商売が基本」という同社だけに、近年インバウンドの人気スポットになっている妻籠宿からの誘客は喫緊の課題です。

海外への情報発信にも積極的で、2018年11月には（一財）日本伝統産業振興協会のフランス・パリのショールームで展示会を開催。商品や技術をPRし、現地業者との商談会や一般販売も行いました。

もうひとつは職人の育成です。同社は南木曾町と相談し地域おこし協力隊員を採用。工房で働きながら職人としての技術習得に努めてもらっています。「地域おこし協力隊の3年間はじっくり教え込むことができる。ここに定住して伝統工芸を担ってくれることを期待しています。これは他町村ではやっていないので良い前例になるのではないかと。町も前向きなので楽しみです」



店内



有限会社ヤマイチ小椋ロクロ工芸所

代表 代表取締役 小椋一男
創業 1976 (昭和51) 年7月
資本金 2,000万円 従業員数 4名
本社 木曾郡南木曾町吾妻4689-239
TEL.0264-58-2041 FAX.0264-58-2665
事業内容 ろくろ工芸など木製品の製作・販売

